

2024年3月期 決算説明会

2024/5/17

2024年3月期 決算説明

連結業績および補足指標

連結業績

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期比
売上高	1,010	1,023	+1.2%
営業利益	36	13	▲64.7%
経常利益	43	17	▲61.6%
純利益	16	▲7	—

為替レート

単位：JPY/USD

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期比
単体取引高レート	132.01	143.95	+11.94円
海外子会社換算レート	130.78	140.55	+9.77円

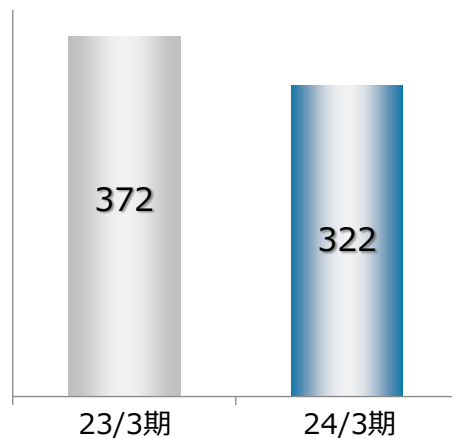
設備投資・減価償却・研究開発

単位：億円（億円未満四捨五入）

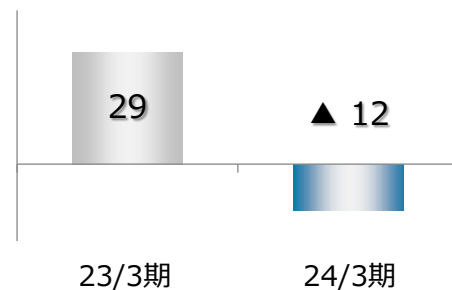
	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期比
設備投資	49	46	▲6.8%
減価償却費	57	55	▲3.3%
研究開発費	47	56	+20.0%

- ◆パワー半導体需要大幅減少も、電装事業伸長、円安効果もあり増収
- ◆電装事業の増収効果があるも、デバイス事業の悪化が全体の利益を押し下げ減益
- ◆純利益は繰延税金資産の取り崩しや投資有価証券売却損計上などにより減益

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



単位：億円（億円未満四捨五入）

取り巻く環境

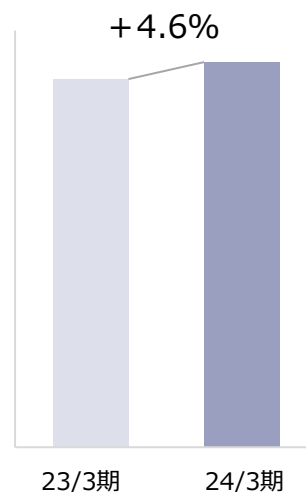
- ・ 中国景気の低迷、流通在庫調整続く
- ・ 自動車生産回復

業績概況

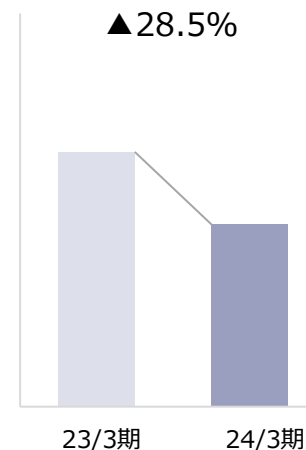
- ・ 自動車市場は上向くも、家電市場、産機市場の低迷が続き事業全体では減収
- ・ 減収影響、生産稼働率の低下、品質保証関連費計上などにより大幅減益

内訳

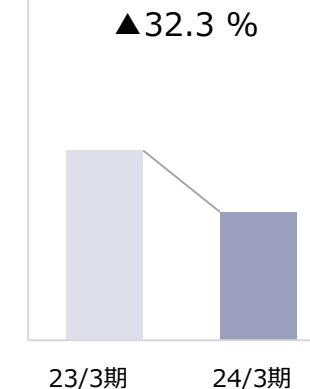
自動車



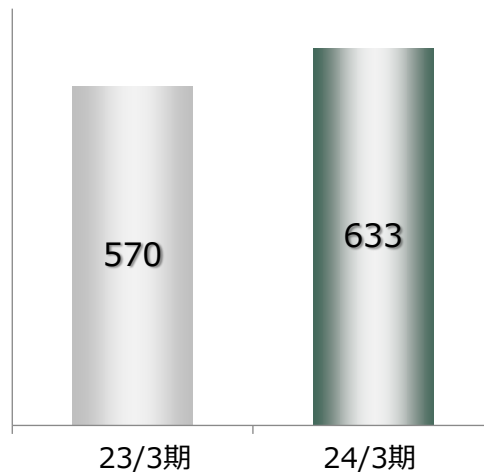
家電



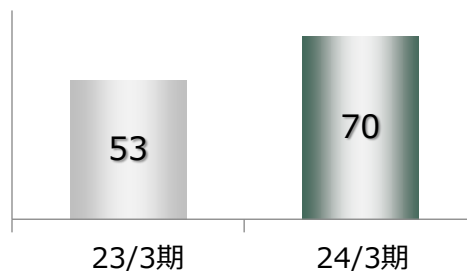
産機



セグメント別売上高



セグメント別営業利益



単位：億円（億円未満四捨五入）

取り巻く環境

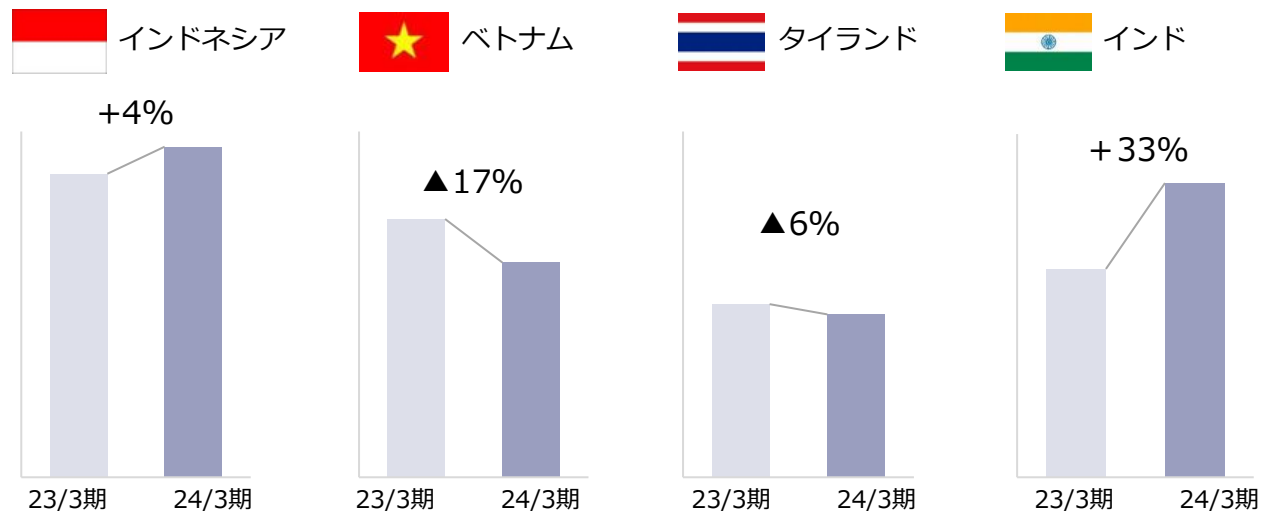
- ・二輪市場は概ね堅調に推移（ベトナムは景気減速）
- ・対アジア通貨の為替相場は円安基調で推移

業績概況

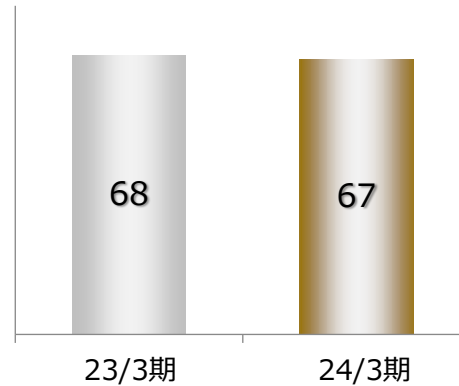
- ・二輪向け製品はインドネシア、インド好調
- ・四輪向け製品はDC/DCコンバータ伸長
- ・円安効果もあり増収増益

内訳

現地グループ会社の二輪車向け売上高（現地通貨ベース）



セグメント別売上高

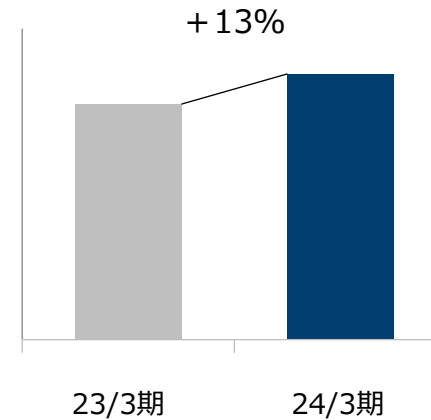


業績概況

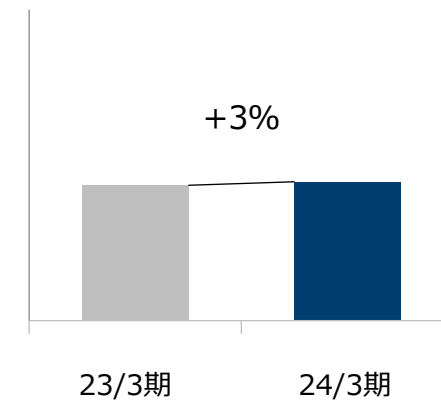
- ・ 通信インフラ向け整流装置増加
- ・ EV充電器は微増
- ・ 太陽光発電向けパワーコンディショナの販売終息影響で事業全体では減収

内訳

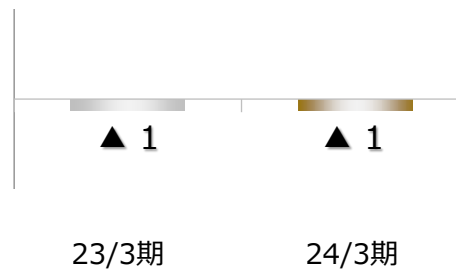
通信



EV充電器

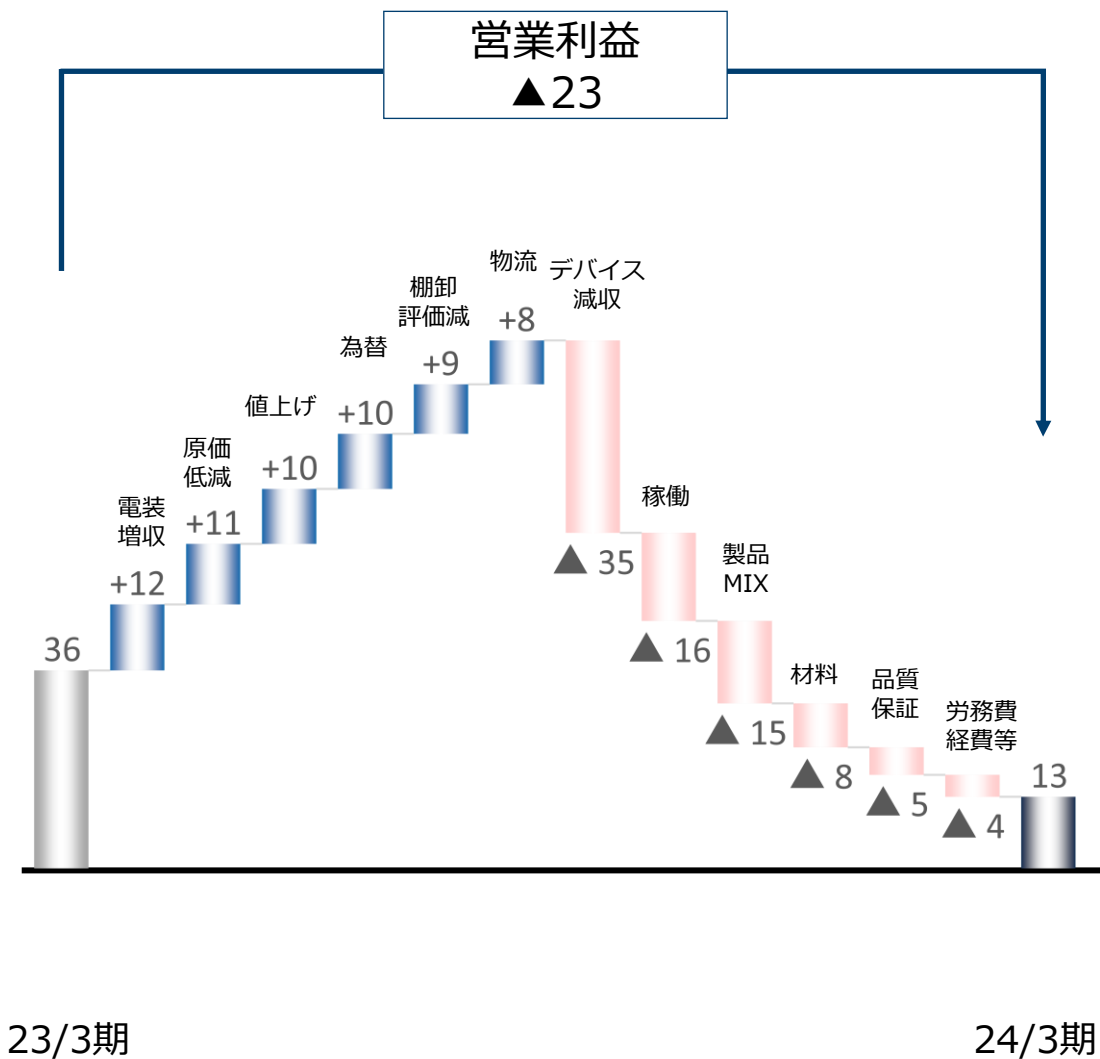


セグメント別営業利益



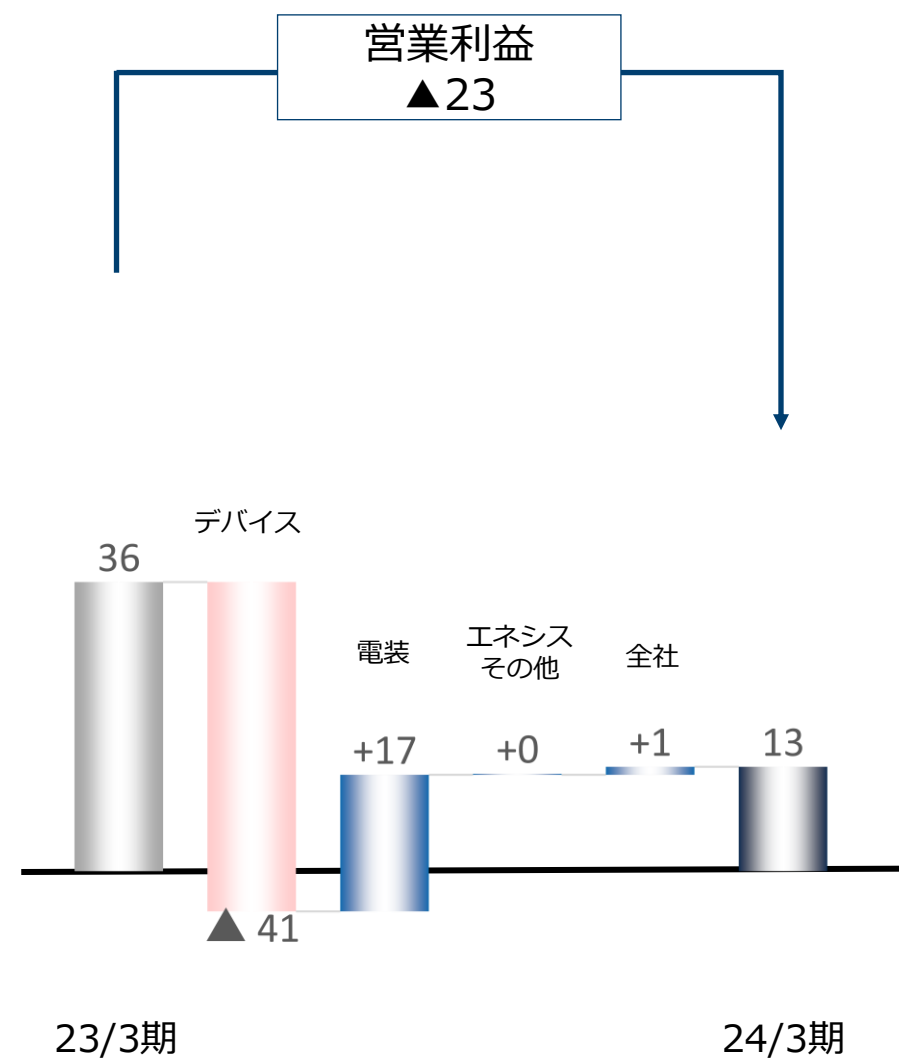
単位：億円（億円未満四捨五入）

要因別増減益分析



セグ別増減益分析

単位：億円（億円未満四捨五入）



連結貸借対照表

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2023年3月期	2024年3月期	増減
流動資産	854	891	+4.3%
固定資産	527	556	+5.5%
資産 合計	1,381	1,447	+4.8%
流動負債	325	311	▲4.2%
固定負債	431	426	▲1.0%
負債 合計	756	738	▲2.4%
株主資本	560	540	▲3.6%
その他包括利益累計額	65	169	+159.6%
純資産 合計	625	709	+13.4%
総資産 合計	1,381	1,447	+4.8%
自己資本比率	45.3%	49.0%	+3.7pt.
有利子負債残高	375	389	+3.7%

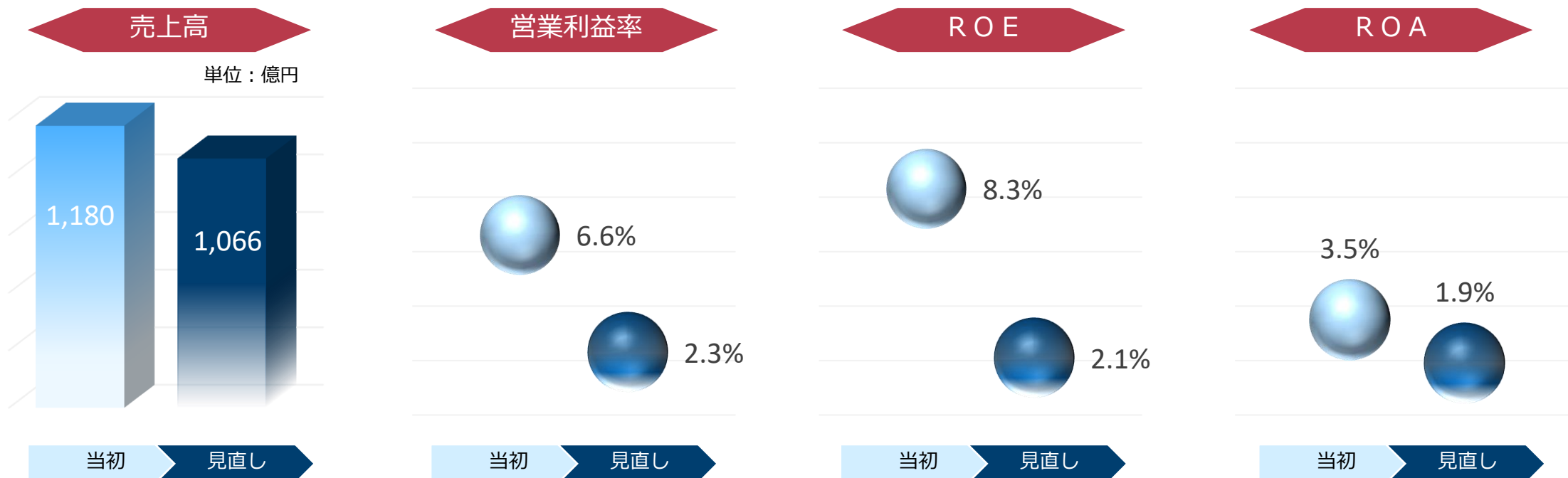
- ◆資産の部 : 今後の所要を見据え、部材や製品の棚卸資産増加
- ◆負債の部 : 仕入債務や退職給付に係る負債の減少
- ◆純資産の部 : 投資有価証券の時価評価および円安による換算影響で増加

第16次中期経営計画

最終年度について

16次中計目標値の見直し

16次中計最終年度（25/3期）目標値



- ◆中国景気減速や政情不安、物価高騰に伴うコスト上昇
- ◆主力の二輪向け製品堅調もデバイス製品や通信インフラ向け整流装置が低調
- ◆サステナビリティ社会や電動化・電子化の進展に沿った高効率デバイス、EV関連製品の創出は一定の成果

当初計画の達成は厳しい状況、25/3期の新たな目標値を設定

第16次中期経営方針

長期ビジョンの実現に向けた基盤づくり

稼ぐ体質づくり
「安くつくる仕組み」



伸長事業拡大の布石
「特長ある製品開発」
「市場投入のスピードアップ」

温室効果ガス排出量削減分野へのリソース配分

安くつくる仕組み

R&D
マーケティング

M&A
アライアンス

高品質
安定供給

ブランディング

資本効率の
向上

ESG経営の
高度化

全社的なデジタルトランスフォーメーション（DX）推進

25/3期 重点取り組み

デバイス事業の黒字化

24/3期営業赤字から
抜本的な対策で黒字回復へ

インド市場戦略の全社推進

オール新電元で
インド市場開拓へ

第16次中期経営方針をベースとし、25/3期 重点取り組みを推進

デバイス事業の黒字化に向けて

成長が見込まれる **モビリティ分野** への **販売拡大**

➤ 生産体制の適正化

低稼働品の縮小や廃品化
生産設備移設
生産レイアウト変更

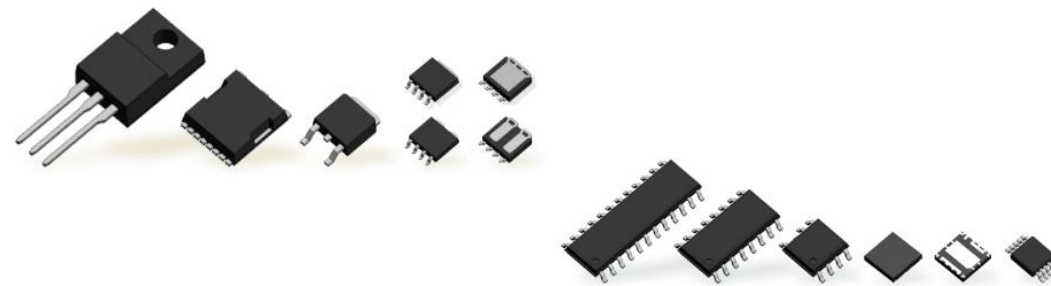
➤ 物流体制の適正化

国内外の物流網見直し
外部リソースの有効活用
倉庫スペース最適化

➤ 販売体制の適正化

欧州や中華圏のニーズに
沿った営業機能の
集中・強化

- ✓ 安くモノをつくるための設計・生産管理・出荷・生産設備の追求
- ✓ 戦略的マーケティングに合致した特長ある製品の投入
- ✓ 製品品質の向上、安定供給
- ✓ マーケティング活動の強化と販売拡大
- ✓ 販売価格の見直し、原価低減活動推進



25/3期を体質転換の年に

インド市場戦略の全社推進

ポストチャイナと目され

高いポテンシャルと成長期待のあるインド

人口：

中国を抜き世界1位

生産年齢人口増加傾向



名目GDP：

世界5位 トップ5の中では高い成長率

23/5月PCU量産開始



24/2月展示会開催



- EV化、電動化の本格化
- 新電元インドの生産性向上、営業活動の強化
- ニーズに対応した製品の生産・販売へ注力（デバイス、電装製品）



社内プロジェクトを立ち上げ、ビジネス拡大を図る

2025年3月期 通期業績予想

連結業績予想および補足指標

前期比較

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2024年 3月期 実績	2025年3月期			前期比
		上期 予想	下期 予想	通期 予想	
売上高	1,023	508	558	1,066	+4.2%
営業利益	13	6	19	25	+95.5%
経常利益	17	6	20	26	+56.6%
純利益	▲7	2	14	16	—

設備投資・減価償却・研究開発

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比
設備投資	46	79	+72.8%
減価償却費	55	59	+6.6%
研究開発費	56	60	+7.0%

為替レート

1USドル = 140円

配当金

1株あたり130円

（前期と同額）

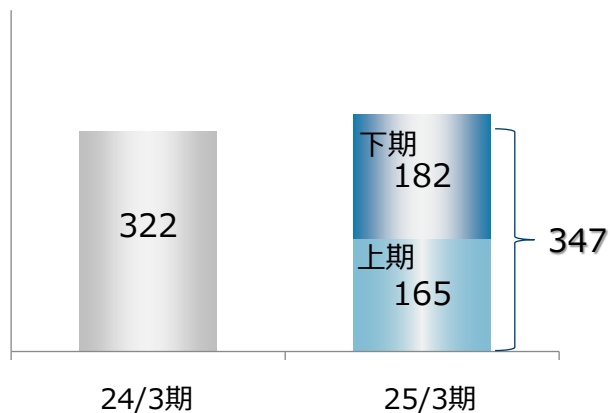
- ◆売上高はモビリティ分野が堅調に推移すると想定し前期比増収
- ◆損益面は電装事業がコスト上昇を見込むも、デバイス事業の収益改善により、全体では増益
- ◆設備投資は成長が見込まれるモビリティ分野を中心に増加

連結業績予想（セグメント別）

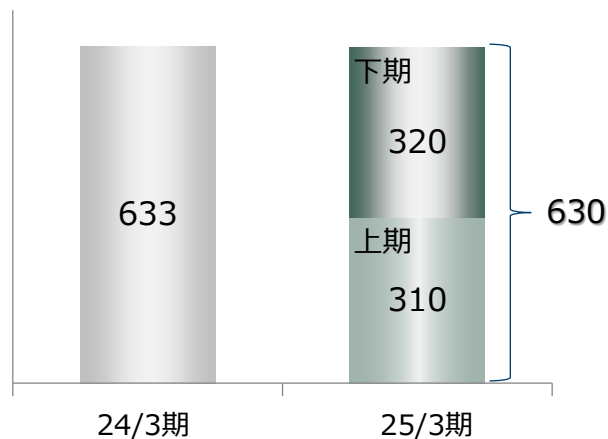
セグメント別売上高

単位：億円（億円未満四捨五入）

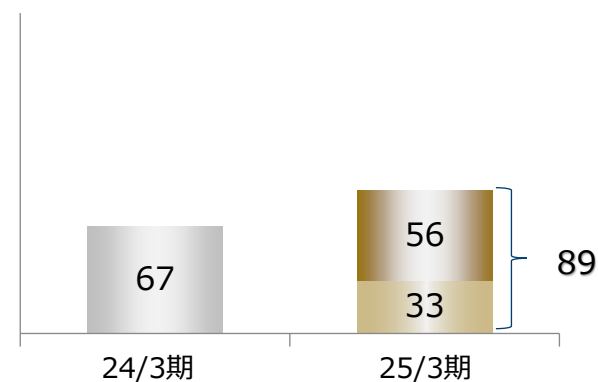
【デバイス】



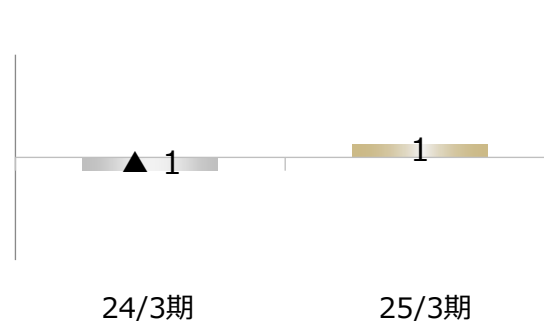
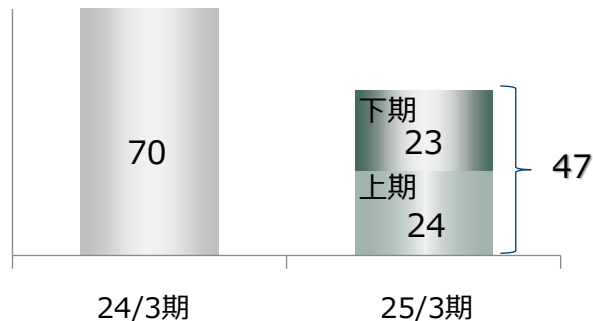
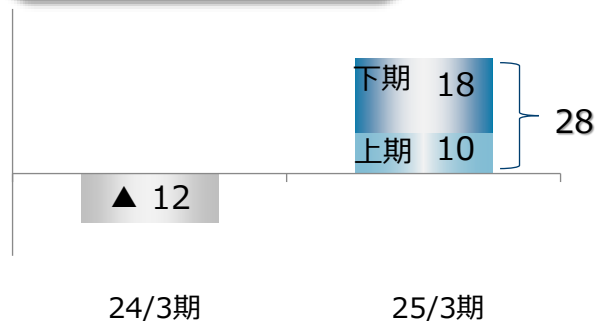
【電装】



【エネルギーシステム+その他】



セグメント別営業利益



【デバイス】

モビリティ分野への販売拡大を見込み増収、損益面は増収効果および黒字化に向けた重点取組みの推進により増益

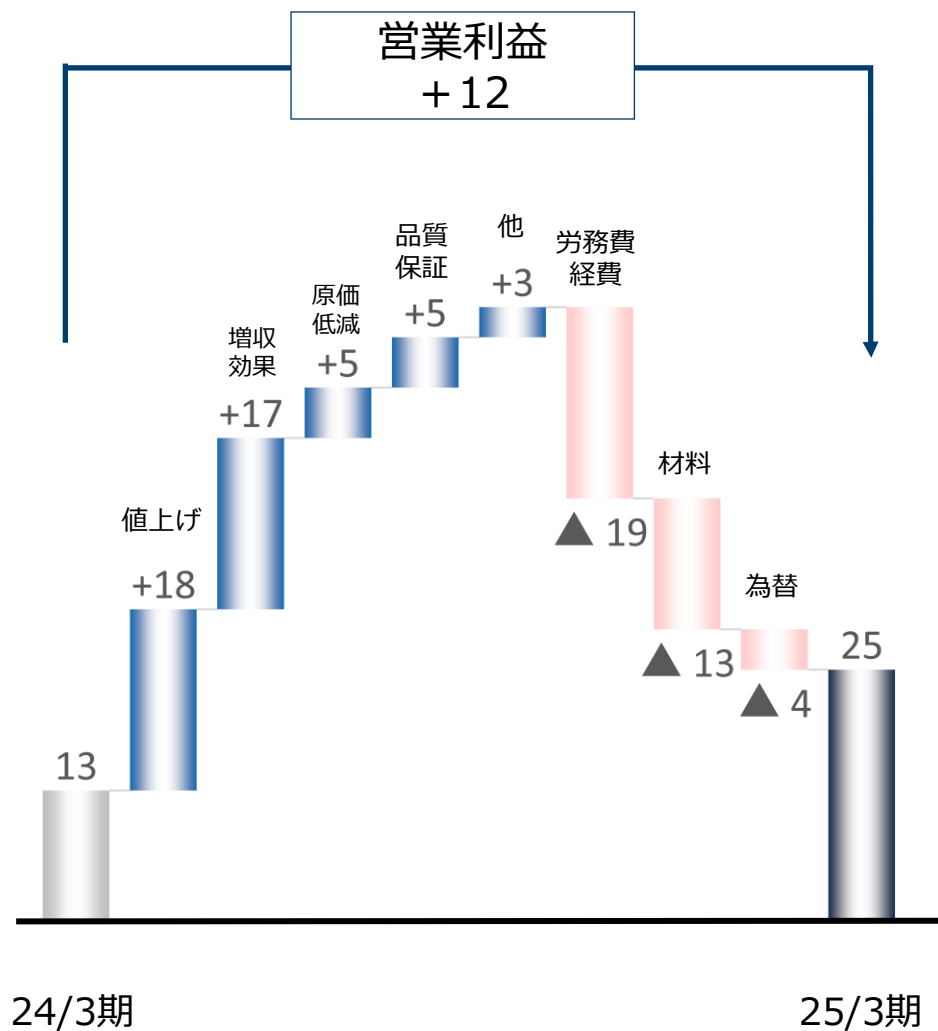
【電装】

二輪・四輪市場堅調も汎用製品減少により事業全体では売上高微減、損益面は主に材料費高騰を見込み減益

【エネルギーシステム他】

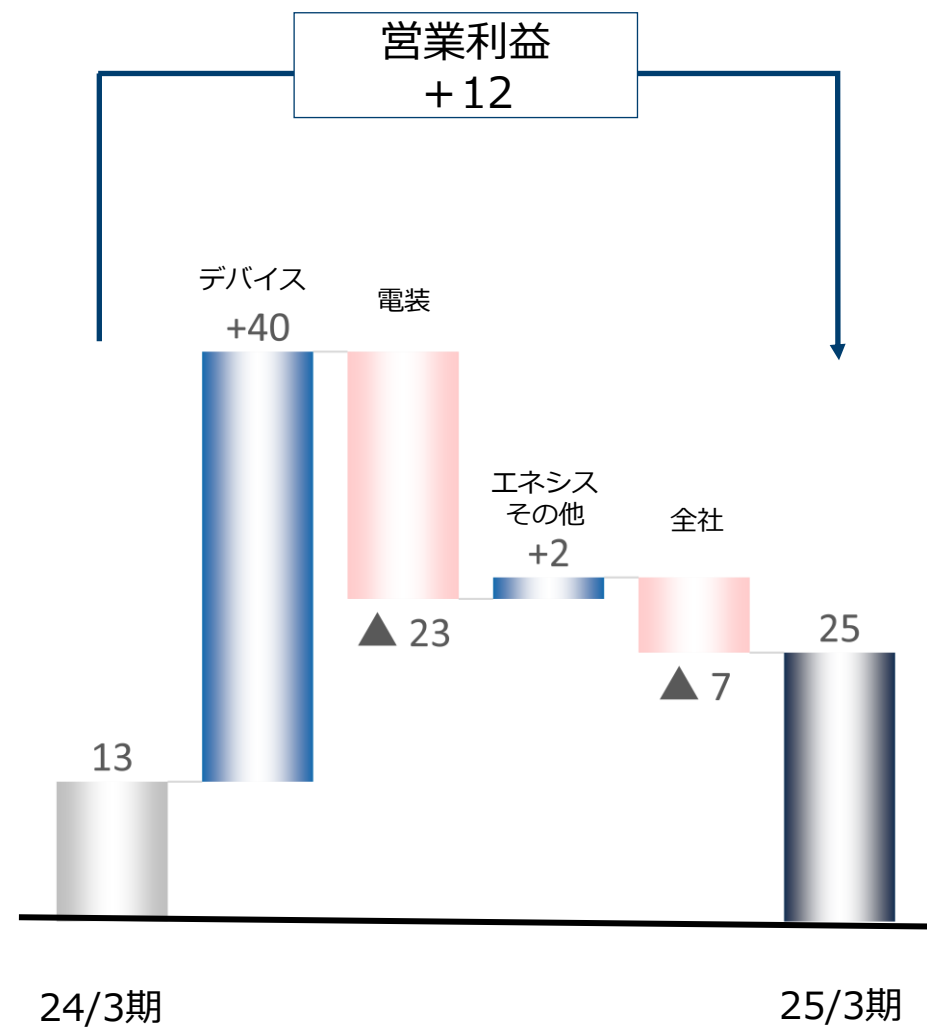
通信インフラ向け整流装置微増、EV充電器伸長を見込み増収増益

要因別増減益分析

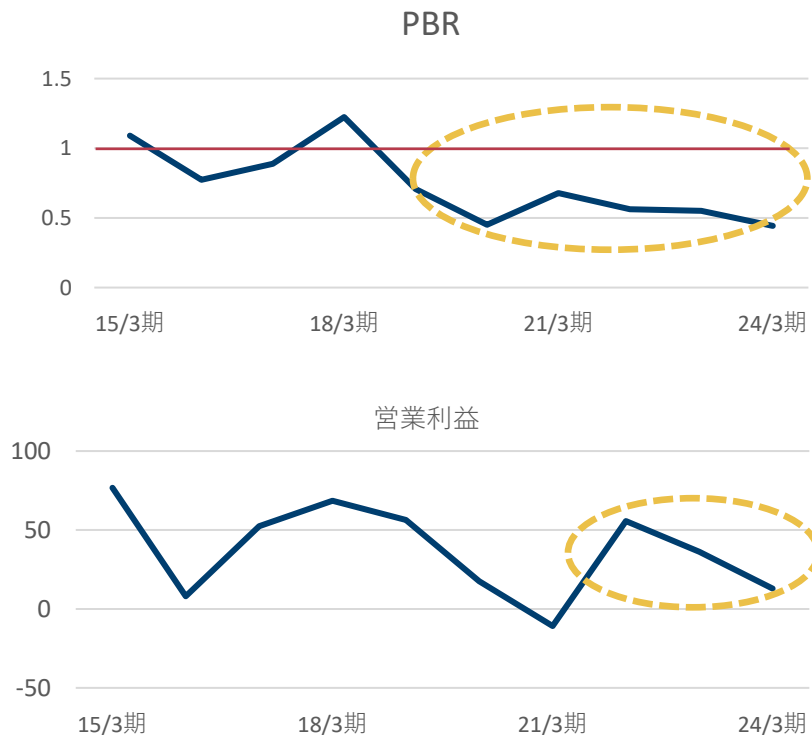


セグ別増減益分析

単位：億円（億円未満四捨五入）



現状課題



収益力の強化

成長分野への注力

25年3月期の対応

デバイス事業黒字化

インド市場戦略の全社推進

BS管理

株主との対話

BSの効率性向上

PLの収益性改善

資本コストを意識した目標値の設定

中長期的目標：
ROIC 5%
ROE 8%

戦略的資金配分により持続的成長へ

- ◆ I R ミーティングの充実
⇒24/3期実績は51回実施
- ◆ 対話における関心事項のフィードバック
⇒取締役会へ報告 四半期に一度
- ◆ フィードバックを踏まえた情報開示
⇒事業や製品に関する中長期戦略
決算説明会にて実施

26/3期からスタートする次期中計へ繋げる

企業ミッション

**「エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、
人類と社会に貢献する」**

ご清聴ありがとうございました。

本資料に記載した将来に関する見通しは、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、
多分に不確実な要素を含んでおります。
従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があります。